

ホーム名：グループホーム そおれ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの理念を事業所内に掲示、マニュアル表紙に掲示と、常に目にするようにしている。又、ミーティング等で常に再確認を行っている。	ホームの理念3項目を玄関・リビング・スタッフルームに掲げ、常に目にする事で実践につなげるように努めている。	職員の良好な関係がチームワークを導く。今後も理念を確認しながら、実践に努めていきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加は行っていないが、日常生活の中で、近所の方と触れ合える機会は多く、良好な関係の下、普通に交流し生活を送れている。	地域の行事情報（正月の催しや夏まつり等）は、運営推進会議時に出席者から得る。事業所1階駐車場でホーム主催の夏まつりには、上階住民への誘いで参加もある。ボランティアによるフルート演奏や演芸の訪問もある。	ホーム主催の夏まつりには普段顔馴染みの近所の方々への声かけで、地域との触れ合いを一層深める催しになればと思う。今後の地域行事への参加の取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の方へのケア等について、報告をしているが、地域の人までは、手が回っていないのが、現状である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、意見交換を行っている。	2カ月に1度、長尾区長・地域包括支援センター職員・入居者・家族の出席を得、開催されている。写真映像での行事報告・今後の行事予定・出席者からの連絡報告及び質疑応答が主な内容である。	市職員・老人会・婦人会・民生委員・相談員などへも出席を呼びかけ、より充実した会議となるよう今後の取り組みに期待したい。司会者と書記を分担する事を提案する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	枚方市への提出書類等は、直接出向いて、お渡しするよう努めている。その機会に、運営状況等を伝えている。	疑問があればすぐ聞ける体制にある。運営推進会議への出席は呼びかけていない。	介護保険の当事者である市の職員には運営推進会議に出席頂き、実情を見て意見や助言を得たいものである。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	立地上、玄関は常時施錠している。「身体拘束防止」については、「倫理要綱」で定めるとともに、定期的に勉強会等を開催している。	玄関は2階にあり、急な階段での転落、又転倒の恐れから常に施錠をしている。ベッドでの4点柵については家族の了解を得、行われている。言葉や投薬による拘束は行っていない。	4点柵に関しては、自宅での生活の継続も重視し、畳での生活を工夫しながら取り組んでみたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画に基づき、勉強会を行っている。又、「法令遵守マニュアル」等で虐待防止通報義務等は、明示を行っている。事業所内にも資料を掲示している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人代表者が、これらの制度を、熟知しているので、必要な相談に応じることは、可能である。必要に応じて、職員への研修等を今後、検討したい。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>そのように支援している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「運営推進会議」「行事」「担当者会議」等への参加を呼びかけている。運営に反映させた特段の事例はないが、個々のケア方針に、反映している。</p>	<p>家族と連絡を密にし、関係作りに努めている。ホーム内行事には家族の参加があり、交流を深めている。「意見箱」は設置していない。</p>	<p>今後も家族からの意見や要望が出やすい環境作りに努め、ホームの運営に反映させていって頂きたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度のミーティング、常勤社員の目標設定への取り組みなど、意見を交換する場や、様々な提案等を検討する機会がある。</p>	<p>会議時は和やかな雰囲気を作る事を心掛けている。非常勤職員も積極的に職務に取り組んでおり、「啓発ポスター」作りも職員の提案によるものである。</p>	<p>職員はチームワークでお互い助け合って職務に当たっているとの事。その様な良好な関係の中からは意見や提案が出易い。ホームがより充実していかれるよう、更なる取り組みに期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>「人材育成制度」の取り組みの中で、定期的な面接あるいは話し合いの場がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の勉強会がある。個々には「資格取得制度」「外部研修参加支援制度」が活用できる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会への参加を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>そのように努めている。入居当初は、スタッフとのコミュニケーション等を重視し、関わるよう指導している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族からお聞きしたことは、今後のケアに生かせるよう記録に残している。面会時にご要望が無いが、聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>具体的な事例は無いが、必要に応じて、相談に乗っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様個々に応じた自立支援の視点を「ケアプラン」で明記し、そのようなケアを行えているか、定期的に確認している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族への行事への参加を呼びかけたり、「状況報告書」でご本人様の様子をお伝えしたりしている。又、「ケアプラン」において家族の役割が明記されている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人などの面会を、家族様同意のもと、受け入れている。</p>	<p>友人の訪問があったり、美容院への通いを継続して行っている。入居者の要望に副えるように努めている。</p>	<p>入居者1人ひとりの思いや意向を把握する中でこういった願いも探りながら、出来る限り支援につなげていって頂きたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者間でコミュニケーションがとれるよう支援の方向性を示した「ケアプラン」もあり、そのような支援に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院後の経過報告等を受け、最期まで関わりを持つことが多い。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に「ケアプラン」を評価し、本人様の意向がくみ取れているか確認している。	普段の生活の中で、会話の中から入居者が何を望んでいるかを読み取る努力をしている。2カ月毎の担当制を用いており、その間はより一層入居者の思いを感じ取る期間となっている。	思いや希望を汲み取る事が出来て「ケアプラン」が成り立つ。今後も、口に出せない思いを探る気持ちで、気づきを働かせながら入居者と接して行って頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	情報は共有されていると思う。今までの生活歴が、どのように今のケアに活かされているのか、十分ではないと思うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの活用と、「ケアプランの評価」を1ヶ月に1度行い振り返っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「担当者会議」が行われている。「アセスメント」「評価(モニタリング)」は、介護従業者も参加している。	家族からの要望も取り入れ、達成感が味わえる目標設定で介護計画を作成している。看取り期に入った場合には、家族や医師を交えて話し合う事もある。介護計画の見直しは半年毎に行い、長期目標・短期目標とも6カ月で設定している。	達成感が味わえるケア・目標は、入居者にとっても職員にとっても自信となり、次に結びつく。生き生きと毎日を過ごせるよう、今後も個々に即した介護計画の作成に努力されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一月に一度「個人記録」を見直している。また、これらをミーティングで発表している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば個別外出の企画などを行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用するといった事例までは無い。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が指定医療機関を主治医としている。但し、本人(家族)の希望があれば、他院受診も可能であるし、必要な支援も行っている。	内科、指定医師による月、2度の訪問診療、看護師との連絡は密である。歯科医、衛生士の指導もある。	事業所の理念に通じる医療との連携で入居者、家族にも支持が得られていると思われる。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医師の往診が月2回、看護師の訪問が週1回ある。訪問時あるいは、電話等にて相談は、いつでも可能であるので、必要な支援を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関との退院に向けた支援を行った事例もある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のありかたについて、医師等を交え話し合いを行っている。</p>	<p>これまでの看取りの経験を今後活かす検討が行われている。重要事項説明書に「重度化した場合における対応にかかる指針について」が盛り込まれている。</p>	<p>亡くなった時、入居者、職員で見送り、別れを惜しんだとの事。高齢者にとって穏やかな別れは「自分の時もそうしてくれる」ことに、繋がっていると思われる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員、定期的な訓練 実践力というところに不十分さを感じる。勉強会はあるが、実際の場面でどこまでできるか不安である。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>全職員が 全ての災害に 昼夜を問わず 利用者が避難できる方法というところが不十分さとそんなことができるのだろうかという疑問も湧いてしまう。地域への協力は「運営推進会議」でお伝えし、消防訓練は、年3回行っている。</p>	<p>事業所が2階階段のみの避難路であるが入居者参加で実施されている。</p>	<p>年内には近隣に事業所転居予定 これまでの経験が活かされることを期待する。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>勉強会もある。言葉遣いは、ミーティングやポスターなどで確認している。</p>	<p>大きな声かけで入居者を威圧しない、服装の乱れや汚れがないように、また外出時には名前のおよび方にも配慮している。</p>	<p>人生の先輩である入居者から学ぶことは多い。職員を子供や孫のイメージで優しく声かける入居者の姿がある。お互いを大切に作る人間集団は居心地が良い環境に繋がっている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>しっかりと声かけを行い、ケアを行うよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>そのように支援してるが、スタッフサイドの優先事項もあると思う。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>外出時の衣装は、特に配慮している。また見えない所の身だしなみについて支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>そのように支援している。</p>	<p>昼食は同じメニューを職員もテーブルを囲んで、見守りさりげない支援の姿がある。食前の体操も日課となっている。職員の声かけで配膳、自ら下膳を行う入居者もいる。</p>	<p>月1回の外食支援は大好評。普段とは違う食欲、喜ぶ顔は職員の喜びでもある。共に楽しむ支援が毎回の計画を成功させている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは、3食後行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>昼間は、原則トイレ誘導を基本としている。トイレ誘導の方法、間隔も個々に応じて、対応している。</p>	<p>自分の意志でトイレに行かれる方への見守り支援、様子を見ながらの声かけ誘導を行っている。</p>	<p>これまでの排泄支援例で、2年間にわたって色々試みたがやむなくつなぎ服を使った経験がある。あきらめず、入居者と共にあるケアのあり方を今後共、集団で構築されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分 食事 運動を把握し励行している。下剤服用の入居者様もいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は、予め決まっている。</p>	<p>水・日以外、週3回の入浴支援を行っている。入浴以外にも適時、清潔保持に努めている。</p>	<p>入浴は体調の変化、心の変化も表出されるときである。また不適切支援で事故に繋がることにもなる。大切な支援を今後とも継続されたい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間の決まりは無い。その方に応じて、支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>「薬剤情報書」はいつでも最新のものとできるようにしているので、服薬内容はすぐ分る。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に応じて、家事参加、家事同伴、日光浴、散歩、個別外出、DVD鑑賞 読書等々支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩 日光浴に努めている。外食や遠足、個別外出を行っている。</p>	<p>一日、1回は外に出るようにしている。事業所の周辺散歩は20分。川沿いに歩道もある。近隣には商店はなく、車での外出も日常的になっている。</p>	<p>毎日、階段を使っての外出誘導はバリアも有効に活用、入居者も職員も不満はない。「雨だって外に出てみなければ体感できない」と責任者の思いは入居者の心に届いていると感じた。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は所持されていない。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時は、スタッフが仲介している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を植えたり、している。換気は、定期的に行っていて、空気の淀みは感じない。特別不快な音、光もないと感じている。</p>	<p>フロアの壁面に和服姿の入居者の写真が複数、笑顔でおさまっている。トイレの表示が大きく目立つ。テーブルが3カ所に配置され、自由に移動する入居者の笑顔がある。ポットが2台飲水支援が常設されている。フロアの一角には床上げ畳の間で横になっている入居者が他の入居者とスペースを共有している様子がある。</p>	<p>テーブルも椅子も形状が異なり入居者にとってお気に入りがあるようだ。入居者が顔をあげ声を出して笑う姿、来客者をきちんとした服装で迎えることなど日常生活へのメリハリある支援が伺える。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>定期的に席替えをしたりしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みは少ない。写真や家族からの手紙などを掲示している。</p>	<p>居室内からも、民家、田畑が見える。写真、職員からの手書きのプレゼント、家族からの手紙等が壁をうめている。各室、整理頓順されている。センサーが入居者の移動を知らせ夜間対応に繋いでいる。</p>	<p>夜間、睡眠時以外、入居者が居室で過ごすことは少ない。仲間と共に過ごすフロアでの日常生活は家族的な環境を共有していると考えられる。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所の掲示、洗濯干し場の工夫 お茶ポットの設置等工夫をしている点はある。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない